

令和7年度 江戸川区立下鎌田東小学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	「考える子」・・・生涯にわたって学ぶ意欲をもち、生きる力の基となる考える力を育成する 「思いやりのある子」・・・自分も相手も大切に、豊かでしなやかな心を育成する 「たくましい子」・・・健康な体をつくり、粘り強くやり抜く力を育成する社会の変化に対応し、自らの力で未来を切り拓き、新しい価値を創造できる力の育成	目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	・笑顔と活力にあふれ、児童一人一人が自分のよさを発揮できる学校 ・考える子 思いやりのある子 たくましい子 ・全ての教職員が協働し、質の高い教育活動の実現を目指す教師	
前年度までの本校の現状	成果	課題	・SCやSSWなどの様々な機関と連携し、保護者と連絡を密にして児童の居場所づくりを行うことができた。 ・体力テストにおいては、多くの種目で都平均を上回ることができた。特に6年生は、体育大会で男子リレーなどを筆頭に上位入賞者を多く出すことができた。	・全国学力調査では東京都の平均にやや及ばず、学力定着度調査でも江戸川区の平均にやや及ばなかった。読解力に課題がある。 ・一人一台端末の導入で、学習活動の幅が広がった一方、ネットリテラシーやSNSマナーが低下しトラブルに発展することが増えた。

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価(A～D)		「中間」学校関係者評価(A～D)		「年度末」自己（学校）評価(A～D)		「年度末」学校関係者評価(A～D)		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の向上	○基礎学力の定着	・電子ドリル・東京ベジックドリルの活用を推進する。 ・授業報告書を活用しEDOスク参加児童の個別支援を充実させる。	・全国学力調査（6年算数）でC・D層50%以下 ・区学力定着度調査（4・5年算数）で区平均	C	C	D	・全国学力調査（6年算数）でC・D層60% ・区学力定着度調査での区との差は4年-5.9%、5年-12.9%	C	・全体の伸びだけでなく、それぞれの学年の伸び率を見ることも必要だと思ふ。 ・一つのこと集中できない子供が増えている実態がある。	B	・3年生以上で行われた江戸川区学力調査では、昨年と比較して正答率が伸びた。特に4年生では16.3%上がった。しかし区や全国の平均には及ばない学年があることで引き続き指導を続けていく。	B	・江戸川区学力調査の結果で、昨年度と比較して正答率が伸びていることに先生方の努力が伺えた。この調子でいってほしい。	・今年度の学力向上の取組が結果として表れたので来年度も継続していく。 ・江戸川区学力調査の結果分析を学力向上アクションプランに反映させる。
	○教員の授業力向上	・「読み解く力」の育成を目指し、校内研究を推進する。 ・国語・算数スタンダード授業を実施する。	・年3回、説明文の研究授業を実施 ・全国学力調査（6年国語）で「読むこと」領域都平均	C	C	B	・説明文を教材として、3回の校内研究授業を行った。 ・全国学力調査（6年国語）で「読むこと」領域、都との差は-7.1%	B	・読解力は算数などでも必要とされるので、読解力を身に付けることは大切。	B	・校内研究では、模擬授業を行ったり、指導案検討を行ったり、教員全員で授業力向上を目指すことができた。	B	・どの教科の学習でも読解力は必要なので、国語の研究が終わってもこの2年間の研究成果を生かしてほしい。	・来年度は、校内研究が算数科に変わるが2年間で構築された辞書引きなどの読解力を高める活動は継続していく。
	○授業改善の推進	・中学年以上で教師の専門性を生かした教科担任制を実施する。	・全国学力調査質問紙調査、国語・算数で「よく分かる」60%以上	B	B	C	・全国学力調査質問紙調査、国語よくわかる23%、分かる60%、算数よくわかる30%、分かる44%	B	・学習への意欲を高めるためには、きっかけが大切。	B	・学校評価保護者アンケートでは「分かりやすく教えている」「一人一人を大切に教育」の項目では肯定的な回答が93.7%、92.6%を占めた。	B	・英語も大切だが、国語の読解力を身に付けさせてほしい。	・算数科の校内研究を核に、教師の授業力向上を図る。
	○読書科の充実	・東部図書館から派遣されている司書と連携して読書活動への興味関心を向上させる。 ・教員による読み聞かせを定期的実施する。	・全学級、週1回以上学校図書館を活用 ・学期に1回教員による読み聞かせを実施	B	B	B	・4年生以下では、毎週利用 ・東部図書館を活用し、資料や学級文庫を定期的に貸出し ・担任による読み聞かせと担任以外による読み聞かせを行った。	A	・本を一冊じっくり読むということを最近、大人もしなくなったので先生方が読み聞かせをしたりお勧め本を紹介するのは有効だと思える。	A	・低学年は東部図書館の巡回業務を利用し、充実した図書館の時間を過ごすことができた。 ・教員による読み聞かせを行い児童の読書意欲を高めた。	A	・読書は読解力の基本になるので、学校図書館の充実に期待する。	・児童の読書離れは本校の課題の一つでもあるので、読書意欲を高めるような学習活動や行事を充実させていく。
体力の向上	○体力テストを活用した運動技能の向上	・体力テストの結果分析を体育学習の改善に活かす。	・シャトルラン、立ち幅跳、それぞれ都平均以上	C	C	C	・シャトルランは、半数が都の平均以上、立ち幅跳は全ての学年で都平均を下回った。	C	・立幅は昨年度の記録は良かったので、来年度に期待したい。	B	・体力合計点で3つの学年で男女ともに都平均を上回り、ソフトボール投げもほとんどの学年で上回った。 ・立幅跳びについては、課題が残った。	B	・最近、ボール遊びなどが禁止されている公園が多く学校でしかできない遊びも多いので、遊びの中から、体力を高めるのが難しくなった。	・体育科の授業やなわ跳びウイークなどを利用して、引き続き児童の体力向上を目指す。
	○体力向上の取組の計画的な実施	・学期に1回2週間ずつ行う「なわとびウイーク」及び「持久走週間」（2月）により、運動意欲を向上させ、体力の向上を図る。	・全学年で体力テスト（6月実施）における、体力合計点、都平均以上	C	C	B	・6月実施の体力テストでは全体の6割弱が都の平均を超えた。高学年になるにつれて平均値を越えられなかった。	B	・体育大会などで結果を残しているの、期待したい。	B	・6年生の体育大会では、男子リレー優勝をはじめ様々な種目で好成績を残すことができた。	A	・体育大会での活躍は、誇らしい。来年度にも期待する。	・なわ跳びウイークでの児童の振り返りなどを参考に、取組を一層充実させるとともに、運動の日常化につながる魅力的な運動内容を紹介し、外遊びを一層推奨していく。
教育の推進 共生社会の実現に向けた	○特別支援教育の推進	・特別な支援が必要な児童に対する見取りを多くの教員で行い、巡回指導教員などと相談して適切な支援を進める。	・週1回の生活指導夕会や月1回の特別支援委員会の充実	A	A	A	・困り感のある児童を発達検査や教育相談へ勧めることができ、場合によっては巡回指導をはじめのまでに至った。	A	・近年の大きな課題の一つだと思われる。先生方では限度があるので、専門家の手を借りることが大切。	A	・特別支援コーディネーターや特別支援教室専門員を中心に、支援が必要だとと思われる児童へ多くの支援を進めることができた。	A	・引き続き丁寧な支援を期待する。	・引き続き、SSWや児童相談所と連携を取り、支援が必要な児童の一助となるように努める。
	○コミュニケーションスキルの向上	・コミュニケーションの基本である能動的な挨拶の徹底を図る。	・児童の学校生活アンケートで80%が「できる」と回答	C	B	B	・アンケートは未だ行っていないが、毎朝の玄関での挨拶が自分からできる児童は2割程度である。	B	・挨拶は人間関係を構築する上で基本なので、徹底させたい。	B	・児童学校評価アンケートで、きちんとあいさつができるという問いに対して肯定的回答は86%だった。	B	・PTAで玄関に立ってみると高学年の挨拶が少なくなっているように見えた。家庭でも声をかけていきたい。	・引き続き挨拶の大切さを指導し、自分から挨拶ができる児童を育てていく。
	○副籍交流の実施・充実	・特別支援コーディネーターを中心として連携を図り、交流を行う。	・副籍交流校と、毎月、学校便りや学年便り等を交換し年間を通して交流	/	/	/	・2学期までは、学校間の行事などの兼ね合いで交流を行うことができなかった。	/	・昨年度もできなかったため、今後に期待する。	/	・今年度も交流を行うことができなかった。	/	・2年間できていないので、来年度は行ってほしい。	・来年度こそは交流をもち、児童の多様性理解の礎としたい。
不登校・いじめ対応の充実	○いじめの早期発見、組織的対応力の強化	・ふれあい月間や毎日のL-gateの取組で児童の様子を丁寧に観察し、いじめの早期発見を行い組織的に対応する。	・学期に1度、児童からの聞き取りを可視化 ・毎日の帰りの会でL-gateを実施	A	A	A	・L-Gateの毎日の記録から児童の変化を感じ取り、困り感を払しょくすることができた。 ・ふれあいアンケートで児童間のトラブルや困り感に対応することができた。	A	・児童の心の動きに敏感に寄り添い、いじめの早期発見、防止に努めて欲しい。	B	・児童の出席状況や日々の様子を学校全体で共有し、早期対応を行うことができた。	B	・今年度もいじめ対策委員会を開くことになった。子供たちの動きに目を配り教員一人一人が人権意識をもって日々の指導にあたる。	
	○エンカレッジサポーターの活用	・遅刻してきた児童が教室に入りづらい場合に、エンカレッジサポーターと教室に向かうことで登校しやすい環境づくりを行う。	・年間を通してエンカレッジサポーターを活用 ・不登校児童出現率2%以内	A	A	A	・登校時間が異なる児童の対応が可能になり、長期欠席児童が減少した。 ・現時点での不登校児童出現率0.5%	A	・引き続き、人員を活用し不登校児0%を目指してほしい。	A	・エンカレッジサポーターがいることで昨年度不登校傾向があった児童の登校が格段に増えた。	A	・3人のエンカレッジサポーターの活躍により、別室登校が可能になった。今後も続けていく。	
	○教育相談の強化	・SC,SSW,特別支援専門員などと連携し、児童や保護者の困り感の解消を目指す。	・5年生の全員面接をはじめ、SCに相談しやすい環境作りを推進 ・相談室の稼働率向上	A	A	A	・定期的なSSWの訪問により、児童や保護者とのパイプ役を担ってもらい連絡が密になり、状態の把握がしやすくなった。	A	・外部機関を大いに利用し、困り感のある児童の居場所づくりに生かしてほしい。	A	・担任一人で抱え込まず、教育相談を利用する場合の対応がシステム化された。	A	・先生方の苦勞が多様化しているの、地域や家庭にもっともんと投げかけたい。	・SCとSSWの活躍で支援につながるものが出来たことが多かった。今後も担任一人が担うことなく組織的に行う。
学校（園）の実現	○学校ホームページの充実	・学校ホームページを毎日更新して教育活動の周知を図る。	・学校ホームページ（学校日記・今日の給食）を毎日更新	A	A	A	・毎日、児童の様子や給食をホームページで更新して教育活動の周知を図ることができた。特に自治行事ではアクセス数を伸ばした。	A	・日光移動教室などの行事では、児童の様子がタイムリーで知ることが出来た良かった。	A	・給食に留まらず、様々な行事やお知らせを掲載することでホームページの閲覧数も多くなった。特に自治行事では、一日で300アクセスあることもあった。	A	・HPの充実に満足している。	・今年度も同様、行事の様子を伝えたり、統合に向けた情報を地域に発信したりしていきたい。
	○学校応援団の活用	・学習活動への保護者の協力を呼びかけ、日頃の学校生活を見学してもらう。	・各学年1回は、学校応援団を活用	A	A	A	・自転車教室や町探検などの学年の行事ごとに学校応援団を募ったことで活用が大幅に増えた。	A	・今後も大いに活用して欲しい。	A	・その都度、学年ごとに学習活動にあった応援団を募集したことで活用ができた。	A	・学年ごとの学校応援団を今年度以上に活用し、保護者とともに児童を育てていきたい。	
	○学校関係者評価の充実	・行事ごとのアンケートや年1回の保護者アンケートを実施し、保護者や地域の意見を教育活動の充実に活かす。	・webを活用した効果的なアンケートの実施 ・年3回の学校評議員会の実施	B	A	B	・学校評議員会を2回開き、保護者や地域の声を聞いたり、教育活動を直接伝えることができた。	A	・今年度は統廃合に伴い、新校準備委員会など地域と学校が集う場が多く連携をとることができた。	A	・今年度は、年3回の学校評議員会に加え新校準備委員会なども集うことが多く、密に連携ができた。 ・今年度もtutoruを活用し、保護者アンケートを実施できた。	A	・統合に向けて、来年度も密に連携をとってほしい。	・学校評議員やPTA本部役員の方々を中心に連絡を密にして、周年行事を成功させたい。
教育の展開	○学校における働き方改革プランに基づく取組の推進	・定時退勤日を設定する。 ・組織改編、分掌ごとの仕事内容の見直しを進める。	・全校定時退勤日を月1日、学年ごとの定時退勤日を月1日設定 ・定時外在校時間月45時間以上の教員、月5人以下	C	C	C	・校内研究や行事の前になると退勤時間が遅くなってしまった。（定時外在校時間月45時間以上9人）	B	・遅くまで学校の電気が点いていることがあるので先生方が心配。	C	・一斉退勤日や学年退勤日を設定し、定時退勤を実施した。 ・成績処理や行事前には退勤時刻が遅くなるが多かった。	A	・先生方の大変さを実感している。負担を軽くしていくためにできることをPTAでも模索していきたい。	・エンカレッジサポーターやSSSなど教員をサポートする人員を活用していく。また教員一人一人が仕事の仕方や考え方を直し、時間短縮を実現していく。
	○児童の自主性の育成	・異学年交流の取組を年間を通して実施する。 ・ノーチャイムでの学校生活を実施する。	・「なかよし班遊び」を年7回実施 ・「なかよし遠足」を10月に実施	A	A	A	・「なかよし班活動」に向けて、上学年を中心に活動することができた。 ・時間は自主的に守ることができている。	A	・コロナ禍にできなかったことが復活して再び軌道に乗って良かった。	A	・上学年がリードして「なかよし班遊び」を実施することができた。	A	・引き続き実施して欲しい。	・来年度も同様に行っていく。 ・学校統合に向けて、江戸川小学校との交流も計画的に実施していく。